



「森づくり体験プログラム」を通し、 子どもたちの「生きるチカラ」を育む —NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

🌿 1年目、ドングリなどの種を拾う園児たち



子どもの森づくり推進ネットワークの活動について語る代表理事の清水英二さん。

🌿 森をささえよう

🌿 森と暮らそう

「子どもの森づくり推進ネットワーク」は、保育園や幼稚園を拠点に、森づくり活動を通し、幼少期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供する全国レベルのネットワーク団体です。

ネットワークでは、「種を拾う」「苗木を育てる」「フィールドに植える」という一貫した森づくり活動を幼少期の子どもたちにもふさわしい体験活動と位置づけて、自然環境と生命の尊さを体感できる「森づくり体験プログラム」を提唱。フィールドに関する情報交換を目的のひとつとして、本年3月にフォレスト・サポーターズにも登録し、森づくり活動を通じた子どもたちの自然体験活動と環境学習のサポートを行なっています。

「子どもの森づくり推進ネットワーク」の活動のテーマは、木を植えて、子どもたちの心を育むことです。そのため、私たちは活動の目的として、①21世紀、環境の時代を生きる子どもたちの「生きる力」と「環境意識」を育むこと、②都市化やデジタル環境の中で本物の自然体験活動から隔離されている幼少期、未就学の子どもたちを対象として活動を提供すること、③そのための方法として、一貫した森づくり活動を通して継続的な自然体験と環境学習の場を提供することの3つを定めています。

具体的な活動は、全国の幼稚園・保育園を拠点とし、3年間にわたって継続的な森づくり体験の活動を提供するといつもです。

- 1年目は、森に出かけて種を拾い、私たちが提供している間伐材のプランターに植えます。特にどの樹種ということは指定していませんが、子どもたちに人気のあり、日常的に触れ合うことができるドングリになる場合が多いようです。
- 2年目は、幼稚園・保育園で発芽した苗を1年間育て、大きな苗木にします。
- そして、3年目は苗木を地元フィールドに植えます。フィールドは必ずしも森とい

今年、48園まで拡大し、全国にネットワークが完成した

JP子どもの森づくり運動活動マップ

緑：2008年実施園 青：2009年実施園 オレンジ：2010年実施園 (2010年4月1日現在)



2年目、発芽した苗を育て、大きな苗木にする

フォレスト・サポーターズ

4つのアクション 活動紹介

3年目、育てた苗木を地元のフィールドに植える園児たち



1年目、拾った種を間伐材を使った特製のプランターに植える園児たち

今日からやろう! 森のための

4つのアクション



森にふれよう



木をつかおう

うわけではなく、各園の事情に応じて設定していて、時には公園や広場に植樹するケースもあります。このフィールドを確保することが、私たちの大きな役目です。

園まで拡大し、全国にネットワークが完成しました。また、最初の14園では苗木を植える年を迎え、全国14の「子どもの森」が誕生します。

この活動の中で、私たちが最も実施したかったことの1つは2年目の活動です。小さなプランターという形で、幼稚園・保育園での子どもたちの日常生活に「森」を持ち込み、自然や命に触れる体験を提供することが大きな目標でした。しかし、子どもたちが1年間を通じてモチベーションを維持するのは難しく、なぜここに苗木があるのか、という意味が分からなくなる子どもたちも出てきます。そこで、苗が発芽した直後にできるだけ保護者の方にも参加していただき、苗木の「お披露目会」を行っていきます。これは、子どもたち、保護者、先生たちが一緒になって、命の芽吹きを感じ、「これからも一生懸命、お世話しようね」という気持ちを持つてもらうためのものです。

私たちの活動は3年間で第1期と考えています。そのため、来年度からは第2期に入るようになります。第2期には、第1期ででき上がったネットワークを持続可能な形で運営していく活動体制を構築していきたいと思っています。そのため、①来年、「国際森林年」の年に全国30カ所で開催活動を実施すること、②「子どもの森づくり」のオールジャパン体制の構築を目指し、平成25年を目標に全国100園の実施園ネットワークを構築すること、③活動継続のために地域におけるサポーターネットワークを構築することの3つを第2期の目標としました。

「森づくり体験プログラム」の活動主体は子どもたちが1日の多くを過ごしている幼稚園・保育園です。私たちは園に寄り添う形でお手伝いし、今後、この活動を地道にできるだけ広げていきたいと思っています。